



女性の本の情報誌・ウィメンズブックス・クラブ会報

ウィメンズブックス

New21 号 2006 年 5 月 25 日

ウィメンズブックストア ゆう 〒540-0008 大阪市中央区大手前1丁目3番49号 ドーンセンター1F

目次

巻頭言 『バックラッシュにひるまずに、進もう！』 イダヒロユキ	(1)
最新刊情報 新刊本を解説付きでご紹介しています	(2)
ミニコミ・ミニコミ ウィメンズブックストアで扱っているミニコミ・研究誌・情報誌の最新情報です	(14)
編集長の著者インタビュー 『ぽっかり穴のあいた胸で考えた～わたしの乳がん体験記』の著者 高橋フミコさんに聞く	(15)
ホットファイル	(15)
ウィメンズブックストア TOP5 (2・3・4月)	(16)
Women's Books からの風 『ウィメンズ ブックス』のニュース・お知らせなどのページです	(16)

(本誌内で紹介している価格は、消費税5%を含んでいます)

巻頭言

バックラッシュにひるまずに、進もう！

イダヒロユキ (日本女性学会幹事)

フェミニズムにおけるバックラッシュ状況が、憲法・教育基本法改悪、共謀罪確立など、戦争遂行国家への動きと軌を一にしていることがますます明らかになってきた。これについては、さまざまに論じる必要があるが、フェミ側はようやく、ちゃんとした分析と反撃の本を出し始めた。ぜひ、日本女性学会・ジェンダー研究会編『Q & A 男女共同参画/ジェンダーフリー・バッシング——バックラッシュへの徹底反論』(明石書店、2006年6月)、木村涼子編『ジェンダーフリー・トラブル』(現代書館、2005年)、浅井春夫・他『ジェンダー／セクシュアリティの教育を創る』(明石書店、2006年)等をみていただきたい。

今までのフェミが一定程度進展してきたのは、既存社会の根本的な改革に手をつけず、イメージや部分的改良(一般理念)にとどまって、リベラルフェミニズムの枠内であったという側面がある。それが実質化し始めたり、一歩進んでいこうとし始めたために、抵抗が起きている(バックラッシュの背景には、それ以外にも、①ネオリベ展開・戦争遂行国家化による不満のガス抜きのためのスケープゴート、②保守的・強権的社会を形成するときの障害物の除去、③単純な右翼・復古主義の台頭といった側面もある)。それにひるんでいたら、上野さん講師拒否事件や福井県生活学習館からジェンダー関連図書150冊が排除された事件のようなことがますます広がっていくだろう。

だからここは、逆にもっともっとフェミの蓄積を踏まえて前に進んでいくことが必要なのだと思う。私の言葉で言えば、シングル单位的な具体的制度改革や男女二元制に手をつけていくことまで射程に入れていく時期だと思う。その意味で、セックスワーク、性に関わる商品、十代の性行動、売買春、中絶、ピル、性的少数派、離婚、シングルマザー、非婚など家族の多様なあり方、性教育、純潔教育(禁欲主義教育)などの諸論点にも、へんに世間の「常識」に媚びることなく、堂々と、説得的に、フェミの観点を語っていき

たい。そうしたスタンスで私は、拙著『続・はじめて学ぶジェンダー論』(大月書店)*、イダヒロユキ・ブログ「ソウル・ヨガ」などで、ある種ラジカルな、私のフェミを展開している。

性に関しての本質主義的な観点を払拭するためには、異性愛主義も含めた、男女二元制/カップル単位制こそ、ジェンダーであったことを深く理解し、「多様な性のあり方」を本当に自分の生き方に適応することが必要だと思っている。それがシングル単位発想を深く理解し実践することだ。「女」と「男」と対比的記述をしてきたこと自体が、ジェンダー記述だったのだが、そのことに注意が及んでいたか。自分を異性愛/同性愛だというとき、そこにはジェンダーがある。それをどこまで意識してきたか。「広義のトランスジェンダー」の理解の一つが、伝統的な性別役割や性別概念にとらわれずに自分の性のあり方やセクシュアリティを持つ人だとすれば、多数派といわれる各人の前にも、既成の女性でも男性でもない「X」という自分らしい性のあり方を求める、トランスジェンダー的な道があるといえるが、これをどうとらえるか。結婚制度/カップル単位感覚を問うことをこうしたことと結びつけて考えていく段階に来ているのだと思っている。

フェミは、また一歩進化する手前にいる。バックラッシュはその産婆である。強権国家化をめざすものたちから、フェミニズムや性教育が障害物(攻撃対象)だとみなされることは、名誉なことだといえる。問題があるとすれば、バックラッシュの攻撃に恐れをなして口をつぐみ、「ジェンダーフリー」概念を捨て、フェミが後退し、中立/中庸化し、骨抜きになり、ナショナリスト、ミリタリストが望むような、「男らしさ/女らしさを大切」にする「男女共同参画や男女平等」になってしまふことである。

(*2ページに本の紹介があります)



最新刊情報

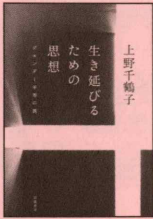
フェミニズム・女性学…… (2)	からだ…… (7)	自伝・評伝…… (12)
労働・仕事…… (4)	セクシュアリティ…… (8)	高齢・福祉…… (12)
法律・政治・政策…… (5)	セクハラ・暴力…… (8)	資料…… (12)
家庭・家族・衣食住…… (5)	文学・エッセイ・芸術…… (9)	メディア・平和・開発・エコロジー…… (13)
子育て・教育…… (6)	女性史・歴史…… (11)	絵本・子ども・青少年…… (13)
こころ・癒し…… (7)	雑誌…… (11)	



〔フェミニズム・女性学〕

生き延びるための思想 ジェンダー平等の罫

上野千鶴子/著 岩波書店 2006年2月 2520円



リベラルフェミニズムの主張してきた「男並みになること」の思想を批判し、「生き延びるための思想」としてのフェミニズムの立場を説く。著者の「ナショナリズムとジェンダー」に関する論考集成。「弱者が弱者のままで尊重されることを求める思想」がフェミニズムだと。

策略 女性を軍事化する国際政治

シンシア・エンロー/著 上野千鶴子/監訳 佐藤文香/訳 岩波書店 2006年3月 3465円



2003年冬、お茶の水女子大学に招待研究員として来日、強い印象をもたらしたシンシア・エンローの最新作。この上ない監訳者、翻訳者を得て訳出された。女性の軍隊参加だけでなく社会のあらゆるところにしのびよる「女性の軍事化」を分析し、「軍事化の策略」を暴き出す。きわめて刺激的な書である。

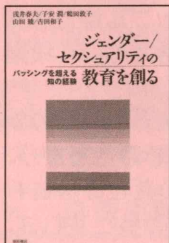
クイズウルトラ人権100問



辛淑玉/監修 人材育成技術研究所/編 解放出版社 2005年12月 2730円
見開き2ページごとに1問のクイズ。個人やグループでの参加、トーナメントなど、様々に楽しみながら「多文化」を探検する。クイズイベントのやり方指南もあります。

ジェンダー/セクシュアリティの教育を創る
バッシングを超える知の経験

浅井春夫 子安潤 鶴田敦子 他/著 明石書店 2006年4月 2730円



性教育バッシングに対する原理的、理論的な反論の書が出された。性教育・男女平等バッシング派の言説を検証し、それに根拠がないことをまず明らかにする。そして、ジェンダー/セクシュアリティ教育をどのように進めるのかを理論的、実践的に呈示している。バックラッシュ派の言説にとまどい、もどかしい思いをしている人々にとって、よりどころとなる書である。

ILOとジェンダー 性差別のない社会へ

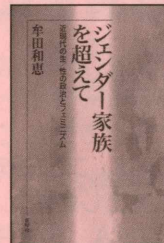
戸塚悦朗/著 日本評論社 2006年3月 2940円



ILOのこと、知っているようで知らない人も多いのでは。そんな人にお薦めしたいのが本書。ILO創設の物語から、男女平等賃金の原則、ILOをとりまく国際NGO運動、日本の従軍「慰安婦」、賃金差別とILOのことなど、これ1冊で、ILOについてずい分詳しくなります。

ジェンダー家族を越えて 近現代の性/性の政治とフェミニズム

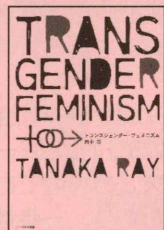
牟田和恵/著 新曜社 2006年4月 2520円



「近代家族」が、ジェンダーの「自然」の仮構の上に、性的欲望や労働力の再生産の仕組みをつくりあげる時、そこには「家族」をめぐる政治がある。そうした家族を、著者は「ジェンダー家族」と呼ぶ。そこにこめられた「政治性」を考察し、「ジェンダー家族」を超えた地平を切り拓こうというのが本書の意図である。

トランスジェンダー・フェミニズム

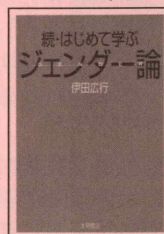
田中玲/著 インパクト出版会 2006年3月 1680円



トランスジェンダーとは、自分の意思で自分の性別を決める「性別越境者」のこと。自らトランスジェンダーである著者が、女性として育てられながら常に違和感を抱いていた日常を語る。性別二元論を問い直したいと。

続・はじめて学ぶジェンダー論

伊田広行/著 大月書店 2006年3月 1995円



＜スピリチュアル・シングル主義＞を唱える著者のジェンダー論入門テキスト第2弾。今回は、セクシュアリティ、DVなどにポイントをおいている。平易な言葉で、「考える」ことができるように書かれているが、内容はかなりラディカルである。ワークシートもついていて、じっくり始めからリアルに考えたい人にお薦めできる。前著『はじめて学ぶジェンダー論』(大月書店)とあわせてどうぞ。

釈尊と日蓮の女性観

植木雅俊/著 論創社 2005年11月 2625円

この分野にははめずらしく増刷を重ねた『仏教のなかの男女観』(岩波書店)の著者が、その発展的考察を重ねたのが本書。釈尊や日蓮の女性観を深め、「仏教は、女性差別の宗教ではない」と。

オープンカレッジから生まれた女たち 女性学から実践へ

湘南VIRAGO/編著 生活思想社 2006年3月 2205円

VIRAGOはラテン語で「人」の女性形。「口やかましい女」の意味もあるという。湘南市のオープンカレッジが始まって10年。ここで活動する女性たちの、学びから実践への足跡がつつられている。社会を変革するために堂々と発言していこうという趣旨で、VIRAGOと名づけられたグループの貴重な記録である。

話してみようよ! エッチ・愛・カラダ 学ぶ! 教える! リプロダクティブ・ヘルス/ライツ

劔陽子/著 明石書店 1365円

妊娠、産む産まない、避妊、性感染症、エイズ、性と愛のいろいろな形など、性と生殖に関する健康、それにまつわる権利について、イラスト入りでわかりやすくまとめている。



性と生殖の女性学

鎌田明子/著 世界思想社 2006年3月 1890円

小説、映画、評論などを素材に、女性の特性としての「性と生殖」がどのような様相を見せているのかを考察。女性として、また研究者として生きてきた著者の道筋に裏打ちされた、ていねいな記述が好ましい。

月経と犯罪

田中ひかる/著 批評社
2006年3月 1890円

「女性は月経時に犯罪を犯しやすい」という見解=犯罪における月経要因説は、21世紀になった今でも流布されている。その根拠は何で、真偽はどうか? 著者は月経と犯罪についての文献をあらゆる分野から収集し、月経要因説の形成過程を明らかにしている。



イマジナリーな領域 中絶・ポルノグラフィ・セクシュアル・ハラスメント

ドゥルシラ・コーネル/著 仲正昌樹/監訳
御茶の水書房 2006年2月 3990円

フェミニズム法哲学の旗手といわれるコーネルが、中絶・ポルノ・セクハラという三大テーマを素材に「自己決定」に際しての「正義」を論じている。様々な既成の価値がからまり内面化もしている中で、女性に「あなたはこうしたいのか」と問いたとしても、それは「自己決定」の完結にはならない。自己再創造のための「イマジナリーな領域」へアプローチする権利が保証されることを著者は提唱する。「イマジナリーな領域」とは何か…は、本書を是非。



言語学とジェンダー論への問い 丁寧さとはなにか

サラ・ミルズ/著 熊谷滋子/訳
明石書店 2006年3月 4158円

言語において構築されたジェンダー・アイデンティティを分析することにより、談話の中のジェンダーと言語の丁寧さの関係を探っている。言葉に興味のある方、どうぞ。

オトコの気持ち オンナの事情 Be!増刊号

アルコール薬物問題全国市民協会(ASK)/編 ASK/発行
アスク・ヒューマンケア/発売 2005年12月 1050円
アルコール・薬物依存症、摂食障害などをテーマとする雑誌『Be!』の増刊号。「女ゆえ、男ゆえの生きにくさは、依存症をはじめとするさまざまな問題に、どのようにかかわっているのか?」(はじめに)をテーマにアンケートし、それを特集としてまとめている。

女性学 vol.13

日本女性学会学会誌13号編集委員会/編
新水社 2006年3月 2500円

特集は「フェミニズムと戦争」。佐藤文香、海妻怪子、岡野八代など。他に投稿論文、書評、報告などで構成されている。「女性学にとってのミードとマネー」(井上輝子)他。

みんなちがって… 未来へ伝える「男女共同参画」

伊藤美希/作・絵 力武由美/英訳
明石書店 2006年3月 1260円

北九州市立男女共同参画センター「ムーブ」の10周年記念事業として企画された「未来へ伝える「男女共同参画」<絵本・音楽物語>創作コンクール」最優秀賞受賞作品。作者は今年9才。斬新な発想の絵本。英訳もついていて、世界に発信していくという。



アメリカの中絶問題 出口なき論争

緒方房子/著 明石書店 2006年3月 4410円

アメリカでの中絶論争を解説し、さらに、性、生殖・妊娠・避妊・ジェンダー問題などの日米比較も行っている。中絶が非合法であった時代の社会背景や女性たちの運動、初めて中絶が法的に認められた1973年の最高裁判決、そしてまた、中絶反対運動の激化、宗教との関係やブッシュ政権における動きなど、詳細に解説されている。



ジェンダーの西洋史

井上洋子 古賀邦子 富永桂子 星乃治彦 松田昌子/著
法律文化社 2006年2月 2415円

自覚的なフェミニズム運動が始まる18世紀から現代にかけてのフランス、イギリス、アメリカ、ドイツ、ロシアのフェミニズム運動史。西洋におけるここ300年の女性運動が整理、一望できる。

<妻>の歴史

マリリン・ヤーロム/著 林ゆう子/訳

慶應義塾大学出版会 2006年4月 6090円

「結婚制度」が曖昧化されつつあるいま、<妻>のイメージも変容をとげている。本書は古代ギリシャ時代から現代社会に至る「結婚制度」のトピックスを、膨大な文献や資料から分析。新しい<妻>イメージを描き出した大著である。

書いて考えるジェンダー・スタディーズ

小平麻衣子 永見尚子/著 新水社 2006年4月 1850円

ジェンダー学を専門としていない教員も「ジェンダー論」の教材として手軽に使えるように、授業のノウハウが詰まっている。図表、キーワード、コラム、ワークシートが多く盛り込まれ、労働、性別役割、恋愛と結婚、子育て、メディア、セクシュアリティなどの分野にわたり、「教える」テキストではなく、「考える」テキストとして、実によく、おもしろく、工夫されて作られている。



韓国フェミニズムの潮流

チャン・ピルファ クォン・インスク キム・ヒョンスク イ・サンファ
シン・オクヒ シン・イルリョン ユン・フジョン/著

西村裕美/編訳 明石書店
2006年4月 3990円

韓国フェミニズムの代表的研究者たちの論文を集めたもの。欧米のそれと違い、韓国のフェミニズムの紹介は、希少の域を出ない。しかし、昨年ソウルで開催された「第9回世界女性学大会」の隆盛を見るまでもなく、韓国フェミニズム研究は、運動と結びつき、果敢なメッセージを発している。



誕生から死までのウェルビーイング 老いと死から人間の発達を考える

内田伸子/編著 金子書房 2006年4月 2940円

お茶の水女子大学21世紀COEプログラムの成果の一冊。誕生から死を迎える瞬間まで、それぞれのステージでそれぞれの価値があり、発達し続けるという。その発達の各段階で、よりよく生きるとはどういうことかを探っている。

近代アジアのフェミニズムとナショナリズム

クマリー・ジャヤワルダネ/著 中村平治/監修
新水社 2006年5月 2940円

19世紀から20世紀初頭にかけての近代アジアにおける女性の権利主張と政治運動への参加の諸運動を考察している。西欧のフェミニズムに目がいきがちであるが、帝国主義的侵略と支配に直接間接にさらされた第三世界のフェミニズムにも見るべきものは多くあり、またそれらは相互に影響しあっていた。



【労働・仕事】

雇用システムと女性のキャリア 双書ジェンダー分析9

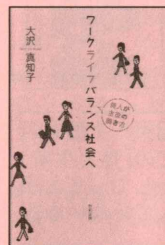


武石恵美子/著

勁草書房 2006年4月 3360円

企業の人事担当者は女性の仕事のスタンスに不満を持ち、女性は企業の姿勢に不満を持つ—この堂々巡りを、働き方のパラダイムシフト(骨組みの転換)によって断ち切ることができないか。

ワークライフバランス社会へ 個人が主役の働き方



大沢真知子/著 岩波書店

2006年3月 2100円

展望のない非正規労働者、過重労働、組織への忠誠をしいられる正規職員というアンバランスを問い直し、仕事もプライベートもともに充実させる働き方、生き方を追及していこうと提案。「実現にむけて」の終章では、有益な具体的提案も。

女性の職業のすべて 2007年版

女性の職業研究会/編 啓明書房 2005年11月 1470円
各職業について、仕事内容、資格のとり方、収入などを紹介。

キャリアサポート

宮城まり子/監修 駿河台出版社 2006年1月 1785円
厚生労働省の後押しもあり注目されているキャリアコンサルタント。その理論と実際、取り組み、活躍するキャリアコンサルタントの実践などを紹介。

夢を実現した女性経営者達 輝き続けて、生涯現役!

NPO不動産女性会議/編著 週刊住宅新聞社
2005年11月 1575円
不動産業やその関連業務にかかわる女性経営者たちが集うNPO法人が、互いに切磋琢磨するとともに情報発信しようと本書を刊行した。

パート・派遣・契約社員の労働法便利事典

小見山敏郎/著 こう書房 2006年2月 1575円
採用、解雇、賃金、社会保険などについて言及。

雇用破壊 非正社員という生き方

鹿嶋敬/著 岩波書店 2005年11月 1785円
三人に一人はパート、アルバイト等の非正社員の時代。企業は不況脱出の過程で人材の受けとめ方を間違ってしまったのではないかというのが著者の主張。コストだけでみる人材のあり方が、日本の基盤を揺るがしかねないという。

キャリア教育と就業支援 フリーター・ニート対策の国際比較

小杉礼子・堀有喜衣/編 勁草書房 2006年2月 2415円
イギリス・アメリカ・ドイツ・スウェーデン・日本の若者対策を比較、紹介。日本より先に若者失業問題に取り組んだ他の先進国の経験は役立ちそう。

女性が仕事について考えておきたいこと

伊藤明/著 三笠書房 2006年3月 1260円
仕事は「自分を磨き、輝かせる時間」。自分の可能性が広がる素敵な経験ができるもの。チャレンジしたい気持ちを大切にするためのヒント集。

グレイス・スタイル

安井悦子/著 カナリア書房 2006年2月 1470円
著者は、化学系研究者、環境分析者、環境関連コンサルタントなどを紹介・派遣する人材派遣・紹介会社の社長。転職しながら環境系人材派遣会社に行きついた道のりをつづっている。

「ニート」って言うな!

本田由紀・内藤朝雄・後藤和智/著 光文社
2006年1月 840円
日本における「ニート言説」に大いに不満を持つ三人の著者が、もう「ニートって言うな!」と主張している。「ニート言説」は、若年雇用問題の咎を若者とその家族に負わせるのみで、日本の若年労働市場の特殊性や雇用者側の問題を覆い隠していると。



好きを仕事に! 女性が創る・活かす・考える・続ける

江國啓造・山本のりこ・平尾俊/著
雄山社 2006年1月 1890円
身近なところにある「好き」を仕事という形で創り上げた女性たち12人のインタビュー。みな、生活しながら、その中から見つけた「好き」を仕事にしている人たちである。

働きすぎ 労働・生活時間の社会政策

社会政策学会/編 法律文化社 2006年3月 3150円
社会政策学会第110回大会報告を中心に編集された論文集。共通論題は「労働・生活時間の構造変化から見る社会政策」。

未来社会をつくる女性の経営マネージメント

金谷千恵子/著 中央大学出版部 2006年3月 1995円
NPOという小さな組織でも必要となるマネージメント。社会の変化、生活者としての女性の活躍の場の拡大などの状況に対応した、女性自身がエンパワーメントしていくマネージメントを説く。

心理カウンセラーになるための本

松原達哉/編著 ナツメ社 2006年3月 1260円
カウンセリングを仕事にしたい、心のケアについて学びたい人へのガイダンス。心理学の基礎知識とさまざまな「カウンセラー」資格の紹介も役立つ。

「好き」を仕事にする!

長倉シュタツ牧子/著 ゴマブックス 2006年3月 1260円
ラジオDJエージェントを経て、番組制作販売会社を創立した著者が、「好き」を仕事にする方法を説く。

女性の仕事環境とキャリア形成

櫻木晃裕/編著
浜松学院大学「女性の仕事とキャリア研究グループ」/著
税務経理協会 2006年3月 2940円
女性のキャリア形成に関しての有効な提言に向けて、本質的な問題点を抽出しようと書かれた。第一部:女性の仕事環境と課題、第二部:女性のキャリア形成と教育、第三部:男女共同参画に関する実態調査。

ワーキングママ応援ガイド 仕事を続ける人も、いったんお休みする人も

主婦の友社/編 主婦の友社 2006年3月 1260円
育児を取って働き続ける母親と、いったん仕事をやめた後、再就職する母親に、仕事と子育てを両立できる働き方やライフスタイルのノウハウを伝授。「きっと変わる、パパの意識」と題して、働く妻を肯定的にとらえている男性の声は取り上げているものの、父親自身の家事育児に触れていないのは不満。

仕事論

ドーンセンター/編著 アルゴ/発行 西日本出版社/発売
2005年2月 1365円
大阪府立女性総合センター(ドーンセンター)が、女性のチャレンジ支援のための本を出版。「働き続ける」ことを実践してきた先輩10人が、働くことで手に入れたこと、続けるためのヒントをアドバイス。ドーンセンター館長竹中恵美子さんと精神科医香山リカさんの対談も。

〔法律・政治・政策〕

変化する社会の不平等 少子高齢化にひそむ格差

白波瀬佐和子/編 東京大学出版会 2006年2月 2625円



格差社会といわれる現在。不平等論は過激さを増している。しかし、実のところ、世の中はそれほど単純でなく曖昧で、それだからこそ、二分法的不平等論がますます人々に受け入れられてゆく。本書の目的は、そんな社会のメカニズムをときほぐすことにあるという。

女性差別撤廃条約の展開 双書ジェンダー分析10

山下泰子/著

勁草書房 2006年4月 3675円



一貫して女性差別撤廃条約の研究を続けてきたこの分野の第一人者である著者の、最近の論文を集めたもの。この10年は、ジェンダーに敏感な視点からこの条約を分析的に捉えようとする歩みの10年だったとは著者の弁。

少子化する高齢社会

金子勇/著 日本放送出版協会 2006年2月 913円

現状の人口減少社会を「少子化する高齢社会」と理解し、適正人口規模1億人を想定して、それに基づいて対応策をまとめたのが本書。「老若男女共生社会」にむけた処方箋には説得力がある。

少子高齢社会の基礎知識 図表でわかる

エイジング総合研究センター/編 中央法規 2006年3月 1680円

少子高齢社会の姿を目で見て読み解こうという入門書。家族、労働力、生活状況、社会保障、地域社会などの軸に分類し、さまざまな論点、課題をわかり易く呈示。

現代女性と法 改訂版

中川淳/編 世界思想社 2006年3月 1764円

社会の中での女性の諸課題と法律の基礎的課題を交差させ、解説。版を重ねる「女性と法」の定番本である。

憲法とは何か

長谷部恭男/著 岩波書店 2006年4月 735円

「憲法は危険物です。取扱い要注意!」とは、帯の言葉。この時期、冷静に考えてみたい人のために。

ジェンダーの比較法史学

三成美保/著 吹田 大阪大学出版 2006年3月 4515円

〔家庭・家族・衣食住〕

熟年離婚 「その後」を楽しく生きるための処方箋

岡野あつこ/著 英知出版 2006年3月 1470円



熟年離婚の言葉がはやり始めたのはそんなに遠い昔ではない。「実際に考えている人」がずい分多いとは、実感するが。

ある家族と村の近代

木村千恵子/著 日本経済評論社 2006年3月 1890円



農村に生きた祖母、曾祖父のくらしから、現代の日本が失ったものをみつめたいと願う著者の熱意による調査。著者も驚くほどの母親の驚異的な記憶力のおかげで、明治・大正・昭和を生きた茨城県の農民の家族と当時の社会背景がいきいきと描かれている。

セカンド・ライフ

マリアンヌ・ヴァンダーヴェルト/著 阿尾正子/訳

主婦の友社 2006年3月 1890円

定年後、夫婦でどう過ごすかを、リタイアメント・コンサルタントが伝授。アメリカには、こういうコンサルタントがいるみたい。

みんな抱きしめたい 親子の「愛と再生」の記録

魚住絹代/著 大和出版 2006年2月 1575円

女子少年院元法務官が少年院の少女たちの立ち直りに携った経験をふまえて書いたノンフィクション。「見守ってくれる人がある」という安心が少女たちを救うのだと。

熟年離婚の損と得 捨てる妻、捨てられる夫

池内ひろ美/著 ワニブックス 2006年3月 1365円

「07年問題」といわれる熟年離婚・熟年別居の嵐は必ず起こるだろうと著者。損得勘定で測るだけのものではないが、するのなら「賢い離婚を」というのがメッセージ。

里親とは何か 家族する時代の社会学

和泉広恵/著 勁草書房 2006年3月 2940円

里親家庭とは「つくられた家族」。家族の自明性が壊されている今、里親家族の姿は「家族がつくられるプロセス」が何かを伝えてくれる。

家族心理学への招待 今、日本の家族は？ 家族の未来は？

柏木恵子 大野祥子 平山順子/著 ミネルヴァ書房 2006年2月 2520円



「家族」の崩壊、危機とマスメディア等でもとり上げられる現象について、考察し解説している。わかりやすく身近なテーマ30項目について、家族の現象を「変化」と考え、社会的文化的状況として心理学者の目線でもとらえている。おもしろい。

新 離婚をめぐる相談100問100答

第一東京弁護士会人権擁護委員会/編 ぎょうせい 2006年3月 3300円

離婚時における実質的平等の実現をめざして、研究やシンポジウム開催などの活動を行ってきた東京弁護士会両性の平等部会の弁護士たちが、離婚に関するあらゆる質問、課題をQ&Aでわかりやすく解説。最近の法律改正、養育費の算出、財産分与や年金分割制度、DVやストーカーなど知りたいと思う項目が網羅されている。

図解 熟年離婚Q&A

目からウロコの編集部熟年世代の生き方研究班/編 第三文明社 2006年3月 1050円

離婚に関する定番の質問、疑問の回答と、熟年離婚といえば必ず話題となる年金分割についてなど、新しい制度についてもわかりやすく解説。

テキストブック家族関係学 家族と人間性

山根常男 玉井美知子 石川雅信/編著

ミネルヴァ書房 2006年3月 2940円

多様化する家族現象を多面的に分析している。家族関係論のテキストであるが、読み物としても興味深い。



新米パパは育休さん 新米パパの育児休業奮闘記～仕事と育児の両立をめざして～

石井憲雄/著 産経新聞出版 2006年4月 1000円
1%にも満たない男性の育休取得者だが、本書は息子の2ヵ月時から1歳8ヵ月ごろまでの育児休業とその後の育児時間を取得した山形県庁職員の育児日記。しつけとしての自分の言動が、子どもの信頼を失うという結果になったことに悩みながらも、それを冷静に受け止めて修復する努力には感心。

人口減少時代の読み方 その時、企業は、家族は、社会は、どうなる？

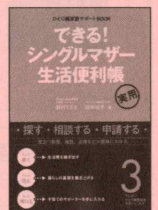
産経新聞「人口減少問題」取材班/著 産経新聞出版/発行 扶桑社/発売 2006年3月 1680円
産経新聞に「待ったなし 人口減少問題」のタイトルで連載された。すでに始まっている人口減の日本の現状をルポしながら、女性の活用、再雇用、ワークシェアリングによる仕事と生活の両立など、ビジネススタイルを変えて、新たな展開をする企業を紹介。

迷宮の少女たち

保坂渉/著 共同通信社 2006年4月 1470円
1980年代、バブル期といわれた時期の始まる前後に生まれた10代なかばの少女たちが、ある日突然に、「非行」とよばれる行動—風俗店での労働、援助交際という「性の商品化」の罠に陥る。時代背景、親自身の課題、親子のコミュニケーション、思春期の男女関係など、大人の社会に問うものを知らずにはおられない。

できる！ シングルマザー生活便利帳

新川てるえ 田中涼子/著 山海堂 2006年4月 1575円
シングルマザーが暮らすためのノウハウ集。「働く」「住む」「預ける」ことについて、役立つ制度や施設の紹介、さまざまな先輩シングルマザーの体験談、そして悩み相談のQ&Aなど、内容は豊富。



〔子育て・教育〕

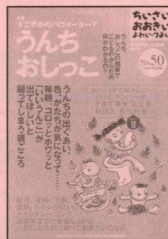
子どもを大切にできる国・しない国 子育てのなかのしあわせ格差を考える



浅井春夫/著 新日本出版社 2005年12月 1785円
少子化対策が強調されるのに、なぜ事態は改善しないのか。勝ち組、負け組の格差が「人生最初の期」である子どもの生活にかけを落としているという。

ちいさい おおきい よわい つよい No.50/No.51 こども・からだ・こころBOOK

毛利子来 山田真/編 ジャパンマシニスト 2006年4月 1260円



50号からリニューアルして、A5判 144ページとなった。子育てしているなかで、ついつい常識とってしまう「大きいほうがよい」「つよいほうがよい」という価値観を見直すというテーマで編集されている隔月刊の雑誌。乳幼児を育てている親や子どもに関わる人にはぜひ。

高層マンション子育ての危険 都市化社会の母子住環境学

織田正昭/著 メタモル出版 2006年2月 1470円
高層マンションにおける育児の問題点とその影響について、住む側、建てる側、環境の三面から論じている。

子どものウェルビーイングと家族

畠中宗一 木村直子/著 世界思想社 2006年2月 1890円
ウェルビーイングとは「健康で安定した生活を実現できている状態」のこと。この概念を指標化し、考察している。

高齢出産ドンとこい！！

藤田素子/著 ぶんか社 2006年2月 1050円
44歳で高齢出産し初子育てする著者のコミックエッセイ。

わが子が期待はずれの大人になってしまったとき

ジェーン・アダムズ/著 堀内久美子/訳 創元社 2006年1月 1680円
子どもがどうしようもない大人になってしまった時、どうしたらいい？ 結論：親自身の人生に意識を集中させること。

心に届く「しつけと愛の伝え方」

ほんの木/編 ほんの木 2006年2月 1575円
子どもの心が見えると子育てが楽しくなるという。楽しく子育てをするためのヒントが満載。

一時保育ハンドブック 現場発信73

学研 2006年3月 1680円
「特別保育事業」の1つとして多くの保育園では始まっている「一時保育」事業についての現場からのヒント集。受け付けの方法からコミュニケーション、ネットワーク、研修まで、現場だからこその実例がぎっしり。

幸せな子育てを見つける本

はせくらみゆき/著 ほんの木 2005年12月 1575円

第1章：スローな子育てのポイント 第2章：スローな子育ての「食」 第3章：スローな子育ての「身体」 第4章：スローな子育ての「生活・しつけ・教育」 第5章：スローな子育ての「心」



関西子連れにぴったりの宿はここだ！

TRYあぐる/著 メイツ出版 2006年2月 1575円
ホテル・ペンション・旅館・公共施設を紹介。

良心の自由と子どもたち

西原博史/著 岩波書店 2006年2月 735円
「日の丸・君が代」強制、性教育の問題など、自由が大きく揺さぶられている現在、自分で考え、判断できる人に育てるためにはどうしたらいいか。

重度障害児家族の生活 ケアする母親とジェンダー

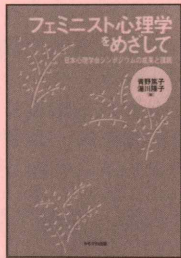
藤原里佐/著 明石書店 2006年4月 3465円
障害児の家族が地域で安全に暮らすためには、介護・育児を担っている女性の問題として捉え直す必要があると改めて提案。今までの研究成果をふまえ、ていねいに考察されている。

<子別れ>としての子育て NHKブックス1056

根ヶ山光一/著 日本放送出版協会 2006年4月 966円
子との間に心理的・物理的に適切な距離を保つことでともに自立できる、とする発達行動学者が、霊長類や保育園児の観察経験から、離乳法や「ほどよい隔たり」をもつ育児空間を提唱。親子が正面からぶつかりあい、妥協点をさぐるという体験から社会性が身につくという。「専門家」盲信への警告やいい意味での「いい加減さ」も説いている。

【こころ・癒し】

フェミニスト心理学をめざして 日本心理学会シンポジウムの成果と課題



青野篤子・湯川隆子/編 かもがわ出版
2006年3月 2100円

日本心理学会シンポジウムをもとに、新たに構成されたのが本書。「フェミニズムの視点をもった心理学」とは何か?どのように目ざすのか、何をどうするのか、について、真摯に向き合っている。第一部「フェミニズムと心理学」 第二部「フェミニスト心理学の研究課題」 第三部「フェミニスト心理学と女性の地位」

カウンセラーの「こころ」新装版

佐治守夫/著 みすず書房 2006年1月 2940円
30年以上のカウンセラー歴をふまえて書かれた定評ある「カウンセリング実践の基本書」。新装版が発行になった。

アディクションと家族 Vol.22 No.4

家族機能研究所/編著 ヘルスワーク協会
2006年2月 1680円

特集は「家族療法実践」

ぼーっとしようよ養生法

田中美津/著 三笠書房 2003年1月 580円
からだをいつも「気持ちよく」すること。そうすると、心も「気持ちよく」なるようです。田中美津さんのロングセラーの文庫版。



摂食障害の理解と対応 現代の思春期女性

井上洋一/著 メディカルレビュー社
2005年11月 2100円

精神科医が摂食障害について、心理の理解と対応、現代的背景を記述。

「心の疲れ」をすっきりさせる本 人間関係がずっと楽になるヒント

鴨下一郎/著 青春出版社 2006年2月 1260円
ストレスの少ない生活を手に入れるための、ちょっとした方法を紹介。

毒になる姑

スーザン・フォワード/著 白根伊登恵/訳
毎日新聞社 2006年2月 1680円

嫁姑関係というが、ここで扱っているのは「舅・姑と嫁」の関係。「毒になる」関係をいかに改善させていくか。

悩んだほうが人生はうまくいく

松原惇子/著 海竜社 2006年1月 1470円
自分をもっと強くするコツについて

女性の心の病気を治す本

山田和男/著 主婦と生活社
2006年4月 1260円

このところ特に女性患者が増えているのが、うつ病、パニック障害、アルコール依存症などだそうだ。少しでも調子がおかしいと思ったら、信頼できるクリニックへ。



母性の喪失と再生 事例に見る「母」としての愛と葛藤

東山弘子/著 創元社 2006年4月 2625円

臨床心理をしていると「母性本能です」とか「母性は獲得されたものです」とか決めつけることはできないという。女性性を優先させたキャリアウーマンの母親と対人関係障害の娘、思春期の息子の反抗に対峙する女性、農村と都市文化のはざまで揺らぐ母性など、本書にあげられた事例とその分析を読むと、それが納得できる。

トラウマを乗り越えるためのセルフヘルプガイド

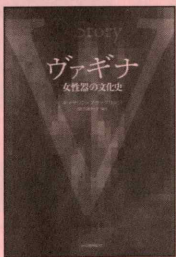
オロール・サブロー＝セガン/著 白川美也子/監訳

山本知子/訳 河出書房新社 2006年4月 1785円

トラウマによって心身ともに傷つけられている人に希望を与え、心理療法士や精神科医に相談に行くことができるように、本書は書かれた。「本来の元気な自分」を取り戻すための実践マニュアル。

【からだ】

ヴァギナ 女性器の文化史



キャサリン・ブラックリッジ/著
藤田真利子/訳 河出書房新社
2005年12月 3360円

女性生殖器(ヴァギナ)の姿を幅広い史料から描きだす。民族文化史、言語学、動物学、昆虫学、解剖学等からの考察、オーガズムのメカニズムなど。

よくわかる女性のからだ事典



天野恵子/監修 法研 2006年2月 1470円

「女性医療」とは、女性の一生のライフサイクルに伴って変化する女性ホルモンの影響を考慮しつつ、心と身体総合医療を提供すること。その視点にたって、女性たちに心と身体を大切にすることを伝えようとしたのが本書である。巻末には、女性外来がある診療所のリストもついていて、これ一冊でひとりのことがわかるようになっている。

更年期からはじまるほんとうの人生

四本泰代/著 文芸社 2005年9月 1470円

40代後半から50代前半の約10年間は「更年期という季節」。ここからはじまる「人生の午後」をどう過ごすか。男性や医療従事者たちにも読んでほしいと。

「女性健診」がよくわかる本

対馬ルリ子/著 小学館 2006年2月 1470円

一般の健康診断だけでは女性には不十分。本音で「女性健診」のことを知って、からだの健康をUPさせよう。

Dr.半熟卵のつぶやき 産婦人科医の日記

須藤なほみ/著 ぜんにち出版
2006年4月 1365円



女性のからだのごくごく基本的な知識から、婦人科、女性外来について、検診のすすめやピルによる避妊について、女性の自尊心の低さ、「きちんと教育すること」の大切さ、セックスはコミュニケーションの手段であることなどを伝えている。著者のブログが、若者たちの支持をえていることを、現在の性教育パッシングへの反論のひとつとしてとらえてよいのではないかな。

お産の時間です。帝王切開と自然分娩 どこまで知っていますか?

井上孝実/著 新風舎 2006年4月 1260円

自分自身が当事者となり、体験する出産、特に、帝王切開について前もって知識をえるための本。当事者である女性たちに、インフォームドコンセントを求めること、自分の妊娠、分娩についてさまざまなことを知る権利があることを説く。

〔セクシュアリティ〕

10代の性行動と日本社会 そしてWYS
H教育の視点

木原雅子/著 ミネルヴァ書房

2006年1月 1890円

いくつもの若者の性行動に関する調査をもとに、「若者の性の異変」の実態、異変の理由、何をなすべきかを検証している。発表前から評判になっていた調査である。

0歳からの性教育読本

キム・ミョンガン/著 阪急コミュニケーションズ

2006年3月 1470円



相談所「せい」で、男女年令問わず様々な悩みの相談にあたっての著者が、「あの質問」に自信をもって答えるためのノウハウをQ&A方式で明快に説明。0歳から10歳くらいまでの子どもをもつ親を対象に、必要なルールとマナーとエチケットはこう教えようと提案している。被害から子どもを守るためには、「性教育」が、ホントウに必要。

セックスレスキュー

大橋希/著 新潮社 2006年1月 1470円

家庭内セックスレスで悩み、追いつめられた妻たちがいる。彼女たちに「性の奉仕隊」を紹介し、肌と肌がふれあう安らぎを感じてもらうためのセックスレス相談所「せい」。

ゲイの民俗学 歴史民俗学資料叢書 第3期第1巻

礪川全次/編 批評社 2006年1月 4725円

解説篇「引き裂かれた同性愛」で、三島由紀夫を題材にゲイの愛と錯誤についてのべる。資料篇では、「ゲイの民俗学」にかかわる文献を年代順に紹介。

マリッジ・セックス

亀山早苗/著 新潮社 2006年2月 1260円

夫婦でありながら男女でいつづけるカップルもいるはず。そんな夫婦を訪ね歩いた実例集。

快楽 更年期からの性を生きる

工藤美代子/著 中央公論社 2006年3月 1575円

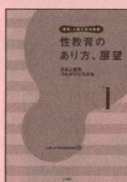
「妊娠しない更年期以降こそ性生活を楽しめる」というのは、違うみたい。そのへんの、更年期以降の大問題を掘り下げたルポルタージュ。絶対に、女性でなければ書けない本。

人間と性① 性教育のあり方、展望日本と世界、つながるひろがる

“人間と性”教育研究協議会/編 大月書店

2006年2月 2100円

六巻シリーズの第一巻の本書では、総論として、性教育の諸問題を縦軸(歴史的)と横軸(世界的に、また他分野から)で考えてみようとしている。性と性教育をめぐる現状、性教育の歩み、医療や地域・家庭での試み、世界各国の性教育など、体系だてまとめられていて読み易い。残りの刊行が楽しみである。



季刊 SEXUALITY 25 人間と性をめぐる教育と文化の総合情報誌

エイデル研究所/編 エイデル研究所

2006年4月 1800円

性教育の授業実践が特集されている。

季刊 SEXUALITY 26 人間と性をめぐる教育と文化の総合情報誌

エイデル研究所/編 エイデル研究所

2006年4月 1500円

特集は「10代の妊娠・出産の“いま”」鈴木幸子、金子由美子、河野美代子など。

思春期の性とからだの本 女の子・男の子

丸本百合子 村瀬幸浩/著

ゆうエージェンシー 2006年4月 1260円

思春期になった女の子と男の子のからだに心について、親が知っておきたいこと、子どもに知ってほしいことをわかりやすく説明。子どもたちへのプレゼントにもどうぞ。

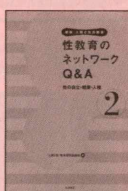


人間と性② 性教育のネットワークQ&A 性の自立・健康・人権

“人間と性”教育研究協議会/編 大月書店

2006年3月 2100円

子どもたちの性をめぐる自立・健康・人権の状況が厳しくなっている今、地域から性教育を創っていく取り組みが必要と主張。教育機関、団体、専門家集団、保護者、ボランティア、住民等にネットワーク構築をよびかける。



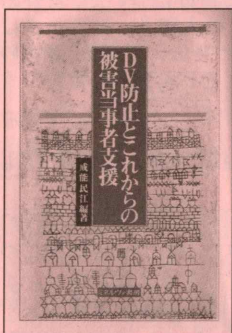
〔セクハラ・暴力〕

DV防止とこれからの被害当事者支援

戒能民江/編著 ミネルヴァ書房

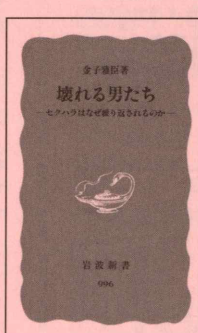
2006年2月 2520円

2004年12月に改正されたDV防止法。法改正における政策形成過程に「当事者参画」の手法を取り入れた点で画期的だという。本書では、被害当事者の回復支援のために地域社会で何ができるか、DV被害を受けた当事者の証言と改正DV法における自立支援をふまえたこれからの被害当事者支援のあり方を探っている。



壊れる男たち セクハラはなぜ繰り返されるのか

金子雅臣/著 岩波書店 2006年1月 777円

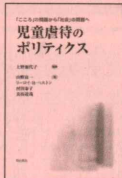


労働相談を担当して、多くのセクハラ当事者たちと接してきた著書が、加害者男性が言い訳し、加害性に無自覚であることについて、その意識を探り、解説する。「夫がそんなことをするはずがない」と、自分との日常生活や性生活とはかけ離れた夫=加害者のセクハラ行為を認めず、相手女性の虚偽であると訴える妻も被害者か。「男性問題」であるセクハラについて、企業の危機管理としてのセクハラ防止の取組を説き、法律を解説する本とは異なる、新しいアプローチのセクハラ必読本。

児童虐待のポリティクス 「こころ」の問題から「社会」の問題へ

上野加代子/編著 明石書店
2006年2月 2415円

児童虐待問題を今日の家族の経済背景との関連で考察、児童虐待防止対策に企図される社会関係の様態も批判的に述べる。児童虐待は「こころ」の問題というより、「社会」の問題なのだという視点。



援交少女とロリコン男 ロリコン化する日本社会

園田浩二/著 洋泉社 2006年1月 819円

援助交際のブームは終わったが、当り前のものとして日常の風景に溶け込んだだけであると著者。著者は、条件付で援助交際が「あってもよい」とする立場にたつ。

親子再生 虐待を乗り越えるために

佐伯裕子/著 島沢優子/編 小学館 2006年2月 1365円
児童虐待への取り組みで定評ある三鷹市子ども家庭支援セン

ター元相談員が、2千件の家庭を受け止めてきた軌跡をつづっている。

「慰安婦」と出会った女子大生たち

神戸女学院大学 石川康宏ゼミナール/編著
新日本出版社 2006年2月 1575円

大学のゼミで「慰安婦」問題を学んだ学生たちのプロジェクトチームによって編まれた本。学生たちが何をどう学びどう考えたか。手づくり感のあるレポートである。

子どもの虐待と母子・精神保健 改訂版 虐待問題にとりくむ人のための「覚え書き」

鷺山拓男/著 萌文社 2006年2月 840円

虐待事例に関わる専門職や行政職員を対象に、著者の実践経験を伝えんとて書かれている。虐待問題の本質は「子どもを抱えて孤立する母親」を大量に作り出している社会背景にあるとし、問題解決を困難にした3つの要因のひとつを「母性神話」の呪縛であるとしている。

【文学・エッセイ・芸術】

女という経験

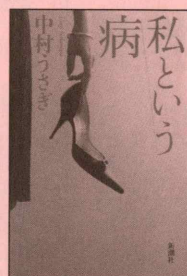
津島佑子/著 平凡社 2006年1月 1890円



私は「女」として生きている。でもそれをいったい、どれだけ意識して生きているのか。…ところが「男」がそこにいと、とたんに私は「女」として認識されてしまう。それを楽しいと思うか、面倒に思うか…（「はじめに」より）

私という病

中村うさぎ/著 新潮社 2006年4月 1260円



「新潮45」連載を大幅加筆。「自らをフェミニストと名乗ることに抵抗がある」が、「自分が書いているテーマはまぎれもなくフェミニズムの領域」だという著者が、「自分の体験と肉体から生まれた思想を語りたい」と、「デリヘル嬢」として採用され、研修を受けた。客から指名されたレンタルルームでの仕事、ホストとのセックスや痴漢のドキュメントなど。東電OL事件の考察もするとい。

電車の中で化粧する女たち コスメフリークという「オタク」

米澤泉/著 KKベストセラーズ 2006年1月 819円

なぜ、女性たちが化粧をするようになったのか。それは、化粧が自己表現であり、趣味の一領域であり、教養にすんなったからなのだそう。化粧は男のためならずらしい。

沈黙のはてに

アラン・タトラットン/著 さくまゆみこ/訳
あすなろ書房 2006年1月 1575円

南部アフリカのとある国の物語。HIV/エイズが国全体をむしばんでいく。16才の少女が語るアフリカの、ある家族の物語。世界9カ国で翻訳されている。



「女性と科学」を科学する お茶の水ブックレット6

毛利衛・樋口恵子 他/著 (特)お茶の水学術事業会
2006年1月 500円

「読売・お茶大アカデミア21」で開催されたシンポジウムの記録集。

近代日本の身装文化 「身体と装い」の文化変容

高橋晴子/著 三元社 2005年12月 6300円

「身装」とは、「身体」と「装い」の合成で、個人的魅力の表現と自分自身の所属を示すサインとして文化的に機能するという。ここ10数年、著者が構築してきた「画像データベース」「文献データベース」を駆使して、近代日本の「身装」に関する文化変容を記したのが本書である。

若草物語 シリーズ もっと知りたい名作の世界①

高田賢一/著 ミネルヴァ書房 2006年2月 2100円

オルコット著「若草物語」の魅力と秘密、現代的意味に12人の多彩な書き手がせまっている。佐藤宏子、森崎和江、中沢けいなど。

わたしは戦争花嫁です

林かおり/著 北國新聞社出版局 2005年12月 1890円

1945年敗戦。「男1人に女トラック1台分」の時代に進駐軍の男性と結婚した日本人女性たち。母国と移り住んだ国と、両方から偏見と差別を受けながら懸命に生きてゆく。彼女たちの願いは「戦争花嫁は売春婦あがり」という烙印をとりさることだとい。

嫁してインドに生きる

タゴール暁子/著 論創社 2006年2月 2310円

1960年、嫁してインドに渡った著者は24才。結婚してのちの生活をつづっている。NHKラジオ「私の本棚」で紹介され、評判をよんだ本。

女性映画が面白い 2006年版 シネマライブラリー Vol.4

小藤田千栄子・林冬子・松本侑壬子・吉田真由美・大竹洋子/著
パド・ウィメンズ・オフィス 2006年1月 1260円

Part 1: それぞれの著者の女性映画2005年ベスト5
Part 2: 女性監督作品 (外国映画・日本映画)
Part 3: 話題の男性監督作品。別冊女性情報のこの冊子、確かな視点のラインアップが毎年。



交差する視線 美術とジェンダー2

鈴木杜幾子・馬淵明子 他/編著

ブリュッケ/発行 星雲社/発売 2005年11月 4200円
『美術とジェンダー』から8年。14名の日本・東洋・西洋美術史研究者が、このテーマで再び論陣を張る。読みごたえある論集。

明仁さん、美智子さん 皇族やめませんか 元宮内庁記者から愛をこめて

板垣恭介/著 大月書店 2006年1月 1260円

女性・女系天皇を認めるか否かに収れんしている天皇制の議論だが、つきつめてみれば、女性一人に男を産むことを強要し、男性一人に生涯隠退することを許さないジェンダーバリバリの人権無視システム…と思っている人も多いはず。

希望の花を胸に 一主婦の戦時下日記

武谷信代/著 中央公論事業出版 2006年3月 2100円
明治32年から平成3年まで92年間生きた一人の女性が、生涯に書きためた日記帳170冊。その中から、戦中から敗戦直後のものが遺族の手でまとめられた。

山好き女教師の定年退職 余命7年の憂うつ

石井昭子/著 鳥影社 2006年3月 1470円
定年間近な女教師が、今までの半生をつづり、趣味である百名山登山への挑戦を書いた。

オバサン論 オバの復権をめざして

大塚ひかり/著 筑摩書房 2006年3月 1470円
「史上最悪」ともいわれるオバサンのイメージ。でも著者によると「オバサンって最高」。巻末に「オバサンに近づくためのブックガイド」も掲載。

さすらい姫考 日本古典からたどる女の漂泊

小林とし子/著 笠間書院 2006年1月 1995円
『鉢かづき』『更科日記』などの日本古典に見られる「不慮の運命からさすらいの旅に向かう姫たち」の物語を解説。姫たちが男系の家へとのみこまれていく道筋での格闘を探っている。

ジェイン・オースティンの読書会

カレン・ジョイ・ファウラー/著 矢倉尚子/訳 白水社 2006年2月 2520円
本書の趣向は変わっている。ジェイン・オースティンの6編の小説について、毎月1編ずつ6ヶ月にわたって女性5人、男性1人の読書会が開かれるのだが、読書会が進むにつれ、参加者の人生とオースティンの小説が重ね合わされ、描き出されていくのである。オースティンファンにとってはたまらなく面白い本。アメリカでベストセラーになったというが、かの地の「読書会」の様子もわかって興味深い。

老女さらい

弓透子/著 草場書房 2005年12月 1575円
認知症の老女の「にわか母親」になりすました主人公を通して、老女をめぐる家族の姿を描いている。ぬくもりを感じる物語。

ママの神様

室井佑月/著 講談社 2006年3月 1575円
シングルマザーの生活を描いた短編11個が並ぶ。「つないだ手を放さなければ、こんなあたしでも正しく生きていけるに違いない」(表紙の言葉より)

生き方の知恵

吉沢久子・清川妙/著 海竜社 2006年1月 1575円
二人のエッセイストの往復書簡。80代の二人、輝いています。

インビジブル・セックス 自伝でつづる「見えない性」の世界

大野弘美/著 三交社 2006年3月 1365円
インターセックス(半陰陽)である著者が、自らの体験を通して、セックスマイノリティについて語っている。ひとくちにインターセックスというが、その表れ方には幅があり、なかなか理解できないという。インターセックスは男でも女でもない中間性のことで、「第三の性」なのだという。

語りべの海

森崎和江/著 岩波書店 2006年1月 2415円
70年代から折にふれ訪ね歩いた玄界灘を改めて訪ね、30年の人々の暮らしの変化を感慨をもってながめている。生活の変化に「地球の病む姿」を重ね合わせた静かな筆致が、読む側の心を打つ。

島成園と浪華の女性画家

小川知子/編 東方出版 2006年3月 2940円
あまり知られていないが、大正から昭和初期の大阪には、たくさん女性の日本画家が活躍していたという。その代表が島成園。本画集は、近代の大阪で活躍した女性日本画家をとり上げる初めての企画なのだそう。

私たちの中にある物語 人生のストーリーを書く意義と方法

オバート・アトキンソン/著 塚田守/訳 ミネルヴァ書房 2006年3月 2940円
アメリカの教育大学発達学科教授が語るストーリー論と、自分のライフストーリーを書くためのガイドライン。ライフストーリーとは、一人の人が生きた人生、人生を思い出すこと、他人に知ってもらいたいについて語ること。

幸福論

小倉千加子 中村うさぎ/著 岩波書店 2006年3月 1575円
高度消費社会の闇の中、少子化、階層化、高齢化が進んでいく。そんな時代の「幸福」とは？そもそも、なんでこんなに生きづらい？この二人の対談なのだから、面白くないわけがない。



イメージ&ジェンダー vol.6

イメージ&ジェンダー研究会/編 彩樹社/発行 星雲社/発売 2006年3月 1260円
シンポジウム「イメージという戦争-戦争をめぐる表象の政治学-」。千葉麗、中嶋泉、若桑みどり、北原恵など。

君に書かずにはいられない ひとりの女性に届いた400通の恋文

中丸美繪/著 白水社 2006年1月 1800円
財界人として、労働問題の最高峰の人とも言われた篠塚秀雄が、昭和5年、東大生時代の出会いから、奥田春枝に送った400通の手紙。それを引用しながら、春枝ヘインタビューし、純粋な愛の歴史をつづっている。

見えない配達夫<愛蔵版>

茨木のり子/著 日本図書センター 2006年3月 2310円
06年2月に79歳で逝去した詩人、茨木のり子が、58年、33歳で出版した詩集。解題、作品集、主要参考文献が付記され、ファンには必携といえる。

少女たちの冒険 ヒロインをジェンダーで読む

廉岡系子 近藤真理子/著 燃焼社 2006年3月 2940円
1870年前後から1900年代初頭までの間の女性作家たちが、おとぎ話、ファンタジー、少女小説の中でどのようにヒロインを描いたかを、ジェンダーの視点で分析している。

シェイクスピアの男と女

河合祥一郎/著 中央公論新社 2006年4月 1890円
思いこみを疑ってかかろう。夫に殺人をそそのかすマクベス夫人のイメージも、彼女の女としてのあり方に注目すると、逆転するかもしれない。

女が35歳になったら読む本

中山み登り/著 PHP研究所 2006年3月 519円
30歳直前から35歳までの「妹シングル」に、35歳以上の「姉シングル」が自らの体験をもって語るメッセージ。恋愛、結婚、おしゃれ、お金、仕事との距離、心と身体の変化などが軽妙に語られ、どんな40歳を迎えたいかしっかりとみつめることができる。文庫書き下ろし。

人生なかばのギアチェンジ

杉山久美子/著 オレンジページ 2006年3月 1575円
さまざまなライフスタイルの夫婦8組に取材した「卒婚のススメ」続編。中年期にとまどいながらもギアチェンジし、次のステップへ踏み出した女性たちをルポ。著者自らの「中年」の生き方が反映されているようだ。

へんな子じゃないもん

ノーマ・フィールド/著 大島かおり/訳 みすず書房 2006年3月 2520円
1947年東京に生まれた著者は現在、シカゴ大学人文学部東アジア言語文化学科長として、日本文学・日本文化を専攻し、日本プロレタリア文学と



小林多喜二にも取り組んでいる。戦後の東京での苦しい時代から現代まで、常に自分の生きている時代を見極めようとする試みから、本書を書いたという。たぐいまれな感性をもった祖母と過ごした日常生活、家族、そして戦後、日本が歩んだ歴史に思いをはせるエッセイの数々。

絵本屋の日曜日

落合恵子/著 岩波書店 2006年4月 1800円
子どもの本の専門店「クレヨンハウス」の誕生からもう30年にも！
疲れた大人にとってのささやかな「処方箋」として、ここに100冊の本が紹介される。著者が自らの日々の生活、想い、心の動きを語りながら、100冊の絵本を私たちに処方してくれる。

いのちを纏う 色・織・きものの思想

志村ふくみ 鶴見和子/著 藤原書店
2006年4月 2940円
着物を着る社会学者と、その色や布を織りなす人間国宝の染織家の対談。色ときものの思想、きもの文化について語る。

愛と性の政治学 シェイクスピアをジェンダーで読む

朱雀成子/著 九州大学出版会 2006年3月 2730円
シェイクスピア文学に登場する女性と男性をジェンダーの視点で読み解き、特に主人公ではない女性たちが背負われたレッテルについて、検証する。

平和への夢 自爆攻撃にまきこまれた少女の日記

「平和への夢」出版委員会/編 ランデルマン・真樹/訳
PHP研究所 2006年3月 1260円
十五歳の誕生日に自爆攻撃によって亡くなった少女の日記と

詩を日本で編集、出版。遺族が、彼女の死後、来日した平和を考える市民グループとの出会い、少女の日記などを紹介したことから、実現したもの。

少女小説 ペリーヌはなぜ英語が話せたか

川端有子/著 河出書房新社 2006年4月 3465円
若草物語、家なき娘、小公女、赤毛のアン、あしながおじさんという、全世界の少女たちに読みつがれており、日本ではアニメにまでなった少女が主人公である小説について、作者が生きた時代背景や家族のありよう、ライフスタイルなどを読み解く。単純に元気な少女たちの姿を楽しんでいただけたらいい。改めて読みなおすことになる可能性大。

デーヴダース 魅惑のインド

シャラツチャンドラ・チョットツパッドヤーイ/著
鳥居千代香/訳 出帆新社 2006年3月 2310円
著者は20世紀初頭に活躍したインドで初のプロ作家。本書は、インドの公用語の1つであるベンガル語で書かれ、多くの言語に翻訳されている。インド社会の「しきたり」に流され、もがく男女の愛のお話だが、女性主人公のしきたりをこえる強さが印象的だ。インド映画の写真が巻頭と巻末にふんだんに掲載されており、興味深い。



輝く女性たち 光葉の35名

昭和女子大学女性文化研究所/編
御茶の水書房 2006年3月 2730円
昭和女子大学を卒業し各方面で活躍している35人の女性のインタビュー。

(女性史・歴史)

纏足の靴 小さな足の文化史



ドロシー・コウ/著 小野和子・小野啓子/訳
平凡社 2005年11月 2940円
一般的にはゆがめられた女性の身体苦痛であり、男性による抑圧の象徴とみられている纏足であるが、本書の視点は違っている。纏足を女性の「身体文化」の発露だったというのである。本書によって、従来の既成概念を揺るがせ、全く見えなかった側面に気付く体験をする読者は多いはず。

中世の女性と仏教

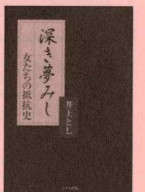
西口順子/著 法蔵館 2006年3月 2415円
中世仏教界における女性の力、役割についての研究書。宗教的大衆として救済の対象とはなりえても、指導者にはなりえなかったとされる尼であるが、実際には、すぐれた經典読解能力、理解力を持ち、仏教遂行に大きくかかわっていたという。

歴史・伝説にみる沖縄女性

比嘉朝進/著 那覇出版社 2005年11月 1390円
沖縄に伝わる様々な女性たちの姿をとりあげている。「夫婦になった兄妹たち」「兄弟を守る姉妹神たち」。いたましいのは「時の犠牲になった女たち」。

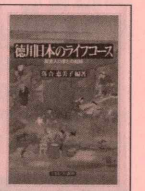
深き夢みし 女たちの抵抗史

井上とし/著 ドメス出版
2006年4月 3360円
大道俊、長谷川章子、城ゆきを中心とした、1930年代、治安維持法時代の社会変革者の姿を伝えている。運動家としての姿だけでなく、生身の生き様が描かれている。



徳川日本のライフコース 歴史人口学との対話

落合恵美子/編著 ミネルヴァ書房
2006年3月 5775円
歴史人口学の数値分析という、一般人には難しいような研究方法を用いて、江戸時代の人々のライフコース(人生)を探り、家族生活の状況を分析しようとした本が出た。江戸時代の庶民の個人としての「人生」を産育、婚姻、移動、居住などから描くということ、大変興味深い書である。



(雑誌)

季刊 女も男も 2006春 106号

労働教育センター編集部/編 労働教育センター
2006年3月 930円
特集は間接差別。間接差別の概念、均等法での展開、欧米の状況などわかりやすく展開している。

季刊 ピーブルズ・プラン 2006冬

ピーブルズ・プラン研究所/編
ピーブルズ・プラン研究所/発行
現代企画室/発売 2006年2月 1365円

小特集「小泉政治の次を読む」で、「女帝・女系天皇制は名にを狙うか」(桜井大子)など

共同参画21 No.23

内閣府/編 ぎょうせい 2006年3月 600円
特集1:地域における男女共同参画 特集2:男女共同参画基本計画(第2次)の概要

希望の灯をともそう あごら304号

BOC出版部 2006年1月 1260円
2006年新年号は「今年こそ平和な世界をつくりたい」

〔自伝・評伝〕

レイチェル・カーソン 自然への愛

アーリーン・R・クオラティエロ/著 今井清一/訳
鳥影社 2006年3月 1890円



『沈黙の春』のレイチェル・カーソンの評伝。環境問題を考える上のバイブルのようにになっている書であるが、これが発表された時の反対と衝撃は、大変なものだったのだ。科学者でありかつ詩人の目をもつ女性の生涯を余すことなく伝えている。

遺言のつもりで 伊都子一生語り下ろし

岡部伊都子/著 藤原書店
2006年1月 2940円



「美しい生活者」といわれる著者。凛とした反骨の姿勢、生きることを直視するまなざしが大きな共感をよんでいる。本書は、そんな著者の自分史の語り下ろし。戦争をはさみ、結婚・離婚を経ての執筆活動もう50年。最後は「ありがとう、ありがとう」でくくられている。

一生懸命って素敵なこと

林文子/著 草思社 2006年1月 1260円
高卒OL。クルマのトップセールスからダイエー取締役会長兼CEOへ。ダイエー再生の鍵を握る。すごい努力の人だということがわかる。

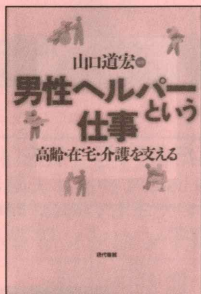
ベルト・モリゾ ある女性画家の生きた近代

坂上桂子/著 小学館 2006年1月 2415円
女性が官立美術学校へ入学することも、裸体デッサンを描くことも許されなかった19世紀末のパリで、「プロの画家」として生きたベルト・モリゾの生涯を追った評伝。「女性画家」としてではなく、印象派の「画家」としてのベルトを歴史の中に確認することが目的だと著者はいう。

〔高齢・福祉〕

男性ヘルパーという仕事 高齢・在宅・介護を考える

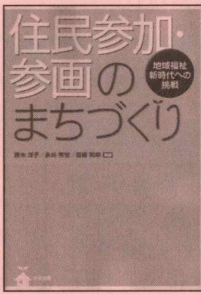
山口道弘/編著 現代書館
2006年3月 1785円



「男性ヘルパーという仕事」から「職業としての男性ヘルパー」への確立が必要だと。「これからは男性も介護に参加を」とはいうけれど、机上の論理は無責任だとも。

住民参加・参画のまちづくり 地域福祉新時代への挑戦

勝木洋子 永井秀世 高橋和幸/編著
中央法規 2006年2月 2575円



地域における福祉活動のありかたについて、子育て支援、児童福祉、ボランティアなどを専門とする学者たちと、社会福祉法人、保育園やおもちゃ図書館、養護学校の現場で働く人たちが執筆。子育て支援とファミリーサポート、子育て支援の充実化をめざしての節は、これからの日本の子育て支援の方向性をめざすものとして参考になる。

年金で暮らせて安くはいれる高齢者住宅

(株)グループわいふ/編 ミネルヴァ書房
2006年2月 2310円

75才以上の後期高齢者が安心して生活するために「人生最後の引越しをして、高齢者住宅に移ろう」。



高齢者虐待を防ぐ地域のネットワーク 横須賀市高齢者虐待防止事業から

角田幸代/著 ぎょうせい 2006年1月 2400円
横須賀市で全国に先駆けて取り組まれた「高齢者虐待を防ぐ地域のネットワーク」の実践報告。事業の状況、実態、現場からの報告、法施行の実際など。調査を交えた実証的な報告である。

エイジフリー社会を生きる

清家篤/著 NTT出版 2006年2月 1680円
いつも生き生きとした生活をするためには、個人の意欲と能力を妨げる規制がないことが必要。つまり「エイジフリー社会」をつくっていくことが大切だと、著者。

長寿社会を拓く いきいき市民の時代

富士谷あつ子 岡本民夫/編著
ミネルヴァ書房 2006年4月 3570円
第Ⅰ部：いきいき長寿社会をめざす市民の時代、第Ⅱ部：高齢期のクオリティ・オブ・ライフを問う、第Ⅲ部：新高齢者の可能性、第Ⅳ部：主体的市民が創る長寿社会

〔資料〕

男女共同参画統計データブック2006 日本の女性と男性

独立行政法人国立女性会館
ぎょうせい 2006年3月 2500円

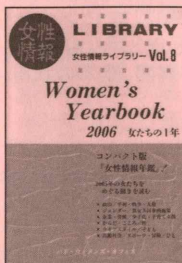
女性の状況を知るには、ジェンダーの視点による統計データが必須。'03年に刊行され大変反響の大きかったデータブックを改訂し、さらに都道府県別データも盛り込んでいる。文献・ウェブ案内や年表、用語解説も役に立つ。



Women's Yearbook 2006 女たちの1年

パド・ウィメンズ・オフィス/編
パド・ウィメンズ・オフィス
2006年3月 1050円

2005年の女たちをめぐる動きを、政治/平和・戦争、ジェンダー、企業・労働、からだ・こころ、など分野別に分けて掲載。『女性情報年鑑』のコンパクト版。



【メディア・平和・開発・エコロジー】

物語の放送形態論 仕掛けられたアニメーション番組

島山兆子 松山雅子/著 世界思想社 2006年3月 1890円



アトム、ポケモン、ドラえものの超人気アニメ番組の放送形態を詳細に分析。ストーリー展開、テーマソング、挿入されたCMによって、いかに子どもたちの「未来」や「愛」やファッション、商品などへの憧れがつくられたかを読むと、見せてしまっている、見ている自分を考えなおしたくなります。巻末のテレビアニメーション事象と社会・文化事象の対比年表はおもしろい。

ガーダ 女たちのパレスチナ

古居みずえ/著 岩波書店 2006年4月 1995円



マスメディアから流れるパレスチナ像と自分が知るパレスチナの人々とのギャップを感じ、占領下にありながら日常の日々を生きる一人の女性、ガーダのドキュメンタリーを撮り続けたフォトジャーナリストである著者。難民キャンプでの女性のくらし・家族、結婚、宗教、教育、自立・・・を知ることができる。5月に公開された著者の監督作品「ガーダ パレスチナの詩」を観る人も、観ない人も、是非読んでください。

京おんなのおばんざい

首藤夏世/著 集英社 2005年12月 730円

京都に生まれ育った著者の人生90年をつづるエッセイとおばんざいレシピ。

パレスチナ 非暴力で占領に立ち向かう

清来愛砂/著 草の根出版社 2006年1月 2310円

パレスチナの非暴力による「国際連帯運動」で活動している若き研究者(ジェンダー法学)の著者が、パレスチナの現地の姿を写真と文章で伝えている。



貧富・公正貿易・NGO WTOに挑む国際NGOオックスファムの戦略

オックスファム・インターナショナル/編著 渡辺龍也/訳 新評論 2006年3月 3675円

グローバリゼーションのもたらす貿易の偉大な果実は公平・平等に分配されていない。貧しく略奪された人々の利益にも即した仕組みづくりが求められている。

やさしいくらしの店 自然派ショップ全国ガイド

やさしいくらしの店探検隊/編 石渡希和子/イラスト

野草社/発行 新泉社/発売 2006年4月 1890円
ナチュラルライフを追求するお店278店を1店1ページで紹介。

国境をこえて くらべてわかる世界地図8

藤田千枝/編 大月書店 2005年11月 1890円

「くらべてわかる世界地図」シリーズの最終刊。「世界がひとつにならなければ解決できないことがたくさんある」をコンセプトに、南極と北極、渡り鳥、気候帯など20項目について、世界を地図でながめている。



【絵本・子ども・青少年】

こころの手をつなごうえー 子どもが考える子どもの人権

赤川次郎/監修 アムネスティ・インターナショナル日本/編

コモンズ 2006年3月 1890円

アムネスティが公募した「子どもの人権」作文コンクールの入選作品16編とそれぞれへの大人からのメッセージ。赤川次郎、イーデスハンソン、石坂啓、落合恵子ら選考委員が語る選考の過程の記録がおもしろい。

ラモーナ、明日へ

ペバリイ・クリアリー/作 松岡享子/訳

学研 2006年1月 1260円

アメリカで半世紀以上にわたって愛読されている「ラモーナ」の物語シリーズの最終刊。ラモーナは小学四年生、十才になった。

"It"と呼ばれた子 少年期 コミック版

デイヴ・ペルザー/原作 しおざき忍/画 田栗美奈子/訳

ソニー・マガジンス 2006年3月 714円

親からの虐待を受けた著者の自伝的書を漫画化。

男の子おことわり、魔女オンリー① きんの敵は今日も敵?

トーマス・プレツィナ/作 松沢あさか/訳

さ・え・ら書房 2006年3月 1365円

親同士の再婚で、義理の姉妹となった二人の少女。もともと仲が悪かったのが、思いがけずに二人1組の魔女となった。ラブラブの親がかわいそうだからと、和平協定を結んで、魔女を楽しむ騒動記。「9歳から99歳までの女の子におすすめ」というキャッチコピーがうなずける。

男の子おことわり、魔女オンリー② 兄貴をカエルにかえる?

トーマス・プレツィナ/作 松沢あさか/訳

さ・え・ら書房 2006年3月 1365円

義理の姉妹で魔女になった二人の少女。秘密の魔女の家ももらうが、魔女のきびしいルールや怖い先輩も。親同士の再婚によるステップファミリーの暮らしもいきいき描かれて、大人にも楽しい。

よんでください

『新版 人間と性の教育①』

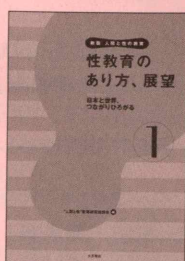
(本シリーズは⑥まであり、現在③まで刊行中)

「人間と性」教育研究協議会編

大月書店 2006年2月 2100円

小宮明彦(会員/「人間と性」教育研究協議会会員)

05年の夏、関東住みの私が徳島へ行くことになった時、「せっかく西へ行くのだから、帰りにぜひ「松香堂」に行きたい」と思いました。調べてみると「松香堂」は「ウィメンズブックスストアゆう」に引き継がれており、「ド



ーンセンター”の中にあるとのこと。“ドーンセンター”は、名前はよく目にしており、興味を持っていました。“ドーン(夜明け)”という名前に、設立に直接間接に関わった人々の万感が込められているように想像し、(勝手に)しみじみしていました。徳島での性教育セミナーの帰りに、いよいよ“ドーンセンター”にある“ゆう”に行く時が来ました…。 “ゆう”には一般の(大規模)書店では入手しづらい、女性、少数者、貧困者などの声を載せたミニコミなどのメディアも多く、数時間居座ってしまいました。“ゆう”で入手した資料(=声)を元に、標記の本の原稿をいくつか書きました。どうかお手にとってご覧下さいますようお願い申し上げます。(8ページも参照)

ミニコミ・ミニコミ

ウィメンズブックストアで扱っているミニコミ・研究誌・情報誌の最新情報です

- 「アジア女性研究」第15号 テーマ:グローバル化とジェンダー
アジア女性交流・研究フォーラム 2006年3月 1000円
- 「あなたとわたしと性」77号 教育基本法「改正」と日本の教育のゆくえ
性を語る会 2006年3月 315円
- 「いこ☆る」第8号 第3回総会報告・こんなことをみんなと一緒にやりたい・記念講演 韓国女性労働者の過去・現在・未来
働く女性の人権センターいこ☆る編集局 2006年4月 315円
- 「季刊 i・MA」第22号 アスベストの健康被害から身を守るために
いま編集部 2006年4月 480円
- 「女たちの21世紀」No.45 特集:私たちはもっと発信できる メディアのフル活用術 アジア女性資料センター 2006年3月 1260円
- 「女のためのクリニックニュース」No.250 全国一斉電話相談を終えて／No.251 女性と大腸がん報告①／No.252 からだ合宿でからだの声を聴いてみよう <どの号も女と健康フェスティバル報告あり>
ウィメンズセンター大阪 2006年2・3・4月 420円
- 「GAZETTE」NO.88 新生FCTメディア・リテラシー研究所一時代を先取りしつつ進化を続けてー
NPO法人 FCT市民のメディア・フォーラム 2006年3月 840円
- 「鐘」大阪女性文芸賞発表 大阪女性文芸協会 2006年2月 525円
- 「関西こども文化協会ニュースレター」No.19 特集:ニートと呼ばれる若者たち 3 『日本若年者就職システムの問題』
NPO法人関西こども文化協会 2006年3月 315円
- 「教育大阪 Vivo la Vita」653号 特集:どうつきあうか「子どもとインターネット」／654号 特集:気になる「子どもの健康」前編／655号 特集:知っておきたい「子どもの健康」後編／656号 特集:気になる「大学」1
(財)大阪市教育振興公社 2006年2・3・4・5月 350円
- 「くらしと教育をつなぐWe」141号(リニューアル第1号) 特集:幸せになる働きかた
フェミックス 2006年4月 800円
- 「Green Letter」VOL.41 「知らなくていいの? あなたの財産」
弁護士 段林和恵 大阪心のサポートセンター 2006年4月 525円
- 「シネマ・ジャーナル」Vol.67 シネジャ読者・スタッフが選ぶ2005年ベストテン
テス企画 2006年4月 800円
- 「消費者情報」増刊 特集:資料編 2005年何が起きたか／No.369 ここまできたITライフーそこにある未来を考えるー／No.370 「住」が危ない!
(財)関西消費者協会 2006年2・3・4月 500円
- 「職場の人権」39号 働きすぎから抜け出す道はあるか
研究会「職場の人権」 2006年3月 840円
- 「スポーツとジェンダー研究」VOL.4 (論文) 体育授業におけるジェンダー体制の生成ー高等学校の持久走授業を事例にー ほか
日本スポーツとジェンダー研究会 2006年3月 1575円
- 「世界女性会議 ネットニュース」No.57 接待・口利き・天下り教育界の不思議／No.58 品格ある国ってどんな国?
世界女性会議ネットワーク関西 2006年3・5月 630円
- 「それゆけ女たち」No.152 「下流社会ー新たな階層集団の出現」を読む／No.153 刑事裁判も変わってきてる?／No.154 続・低賃金で働くということを考える
セクシャルハラスメントと闘う労働組合あぶる 2006年3・4・5月 210円
- 「高槻ジェンダー研究ネットワーク(TJKN)通信」No.26 審議会答申から後退した「高槻男女共同参画推進条例」制定に思う
高槻ジェンダー研究ネットワーク 2006年2月 315円
- 「中国女性史研究」第15号 (論文) 近代中国における新式出産運動に対する女性たちの対応ほか
中国女性史研究会 2006年1月 1050円
- 「ひとりから」第29号 世界をつなぐ 朝田今日子ほか
編集室ふたりから 2006年3月 1050円
- 「ファイト・バック」Vol.65・講座報告「性犯罪におけるポルノグラフィの存在を考える」
性暴力を許さない女の会 2006年1月 525円
- 「フィフティ・ネット」VOL.19・女性政策 冬の時代
NPO法人フィフティ・ネット 2006年4月 525円
- 「ふえみん」2783号 上野千鶴子さん講師拒否に広がる都への抗議／2785 非暴力平和隊の試み(上)／2786 ふえみん創立60

- 周年特集号／2788 「ジェンダー」概念を話し合うシンポジウム／2789 止めよう再処理!「4・9反核燃の日」／2790 米軍再編に抗して⑤ ふえみん婦人民主クラブ 2006年2・3・4月 210円
- 「fujin-tsushin」(婦人通信) No.573 どうなる私たちのくらし／574 「おんな力」と女性のエンパワーメント／575 均等法の実効ある改正と働きやすい職場づくり
日本婦人団体連合会 2006年3・4・5月 380円
- 「Voice」第159号 戸籍続柄裁判最高裁上告棄却(11/18)ー丸17年半の続柄裁判を終えてー(2)／160号 丸17年半の続柄裁判を終えて(3)
なくそう戸籍と婚外子差別・交流会 2006年1・2月・3・4月合併 210円
- 「VOICE OF WOMEN」No.269 例会「インターネットが煽る暴力ポルノ」報告／270 父親の性暴力を訴えた裁判にご支援を!／271 靖国神社ー女たちの戦争と平和資料館レポート
日本女性学研究会 2006年3・4・5月 158円
- 「マイマイ族」第49号 特集:もう我慢できない!
鈴木美和子 2006年5月 315円
- 「月刊むすぶ」No.421 戦後の闇に埋もれた薬害 京都・島根ジフテリア予防接種禍事件／No.422 自分たちで守る自然／No.423 宴のあと?ウタゲの始まり!
ロシナンテ社 2006年2・3・4月 840円
- 「れ組通信」No.223・レッツ・ラブ・香港を上映して／No.224・パートナーシップ法と同性婚／No.225・介護件と介護の実際
れ組スタジオ・東京 2006年3・4・5月 525円
- 「わいふ」319号 特集:さよならわいふ
わいふ編集部 2006年4月 620円
- 「女(わたし)のからだから」No.241「ヒト幹細胞を用いた臨床研究の在り方に関する委員会」報告／No.242「ヒト幹細胞…指針案」パブコメ募集中／No.243 女のからだから合宿やるよー!
SOSHIREN・女(わたし)のからだから 2006年2・3・4月 315円

<単発もの>

- 「疲れていませんか 援助者のあなたーわたしたちにもサポートがほしい」
NPO法人心のサポート・ステーション 2006年2月 735円
- 「DV被害者プログラム資料集 Tool box ファシリテーターのための道具箱」
アウェア 2005年10月 4000円
- 「EUからの風 深化しつつける男女均等政策」
均等待遇アクション21 EU男女均等政策調査団 2005年8月 800円
- 「お茶の水ブックレット6 「女性と科学」を科学する」
お茶の水学術事業会 2006年1月 500円
- 「ドーンハンドブック6 相談現場から見える現代社会と女性センターの役割ーサポートカウンセリングルームの10年ー」
(財)大阪府男女共同参画推進財 2006年3月 840円
- 「未来へ伝える『男女共同参画』<絵本・音楽物語>創作コンクール入選作品集」
- CD 「未来へ伝える『男女共同参画』<絵本・音楽物語>創作コンクール優秀賞「誰も決めていない」(CDは、500円)
北九州市立男女共同参画センター「ムーブ」 2006年3月 1575円
- 「ジェンダー解凍ハンドブック コーチからの100の質問」
守婦 朋子 2006年3月 500円
- 「ノーベル平和賞受賞者ワンガリ・マータイさんと語る 北九州市民・環境フォーラム 世界の環境首都をめざして」
(財)アジア女性交流・研究フォーラム 2006年3月 300円
- アジェンダ第12号「日本国憲法を読み直す」
アジェンダ・プロジェクト 2006年3月 500円
- 「行列はできないけれど障害のある人にやさしい法律相談所」
Sプランニング 2005年12月 1050円
- 「京都子づれパワーアップ情報8号 特集:子連れで行けるレストラン50軒」
NPO法人おふいすパワーアップ 2005年12月 1050円
- 「フリーター☆非正社員版・サバイバル講座in梅田 報告集」
アルバイト・派遣・パート関西労働組 2005年11月

編集長の著者インタビュー

ぽっかり穴のあいた胸で考えた わたしの乳がん体験記

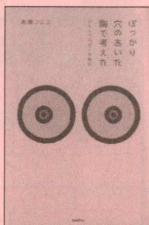
高橋フミコ/著 バジリコ出版 2006年3月 1365円

最初は軽い気持ちで手にとったものの、面白くて最後までずんずん読み進んでしまった…という本に出会えると楽しい。トクした気分になる。そんな気分を味わいたい方は、本書をどうぞ。

著者は、「ニップルアップル」というユーモアと過激さいっぱいのおっぱいパフォーマンスを演じるアーティスト。その著者が、「本物の乳がん」になってしまった…その体験記が本書である。

なぜ、ずんずん読み進めるかって？

それは、本書が、時として悲劇的、運命的であることを旨とする「がん闘病記」ではなく、ガンになったことで見えてきた



著者インタビュー 第21回

『ぽっかり穴のあいた胸で考えた』の著者

高橋フミコさんに聞く

(パフォーマンス・アーティスト)

——：この本の初出は、北原みのりさん主宰の「ラブピースクラブ」のホームページなのですね。

高橋：そうです。乳がんとわかったごく初期のころ、北原さんに勧められて「半社会的おっぱい」というタイトルでHP上に書き始めたのが、最初です。週一回、「何かを書く」必要がある中で、自分を見つめ直し、考えをまとめていくことができました。

——：「あとがき」に、「(書くことで) 安寧を得た」とありますが。

高橋：ひとかたまりの文章にしてさらけ出すことによって、見守ってくれている人たちとの暗黙のやり取りがあるような気がしてきたのです。「書くことで生き延びた」というのが本当の気持ちです。

——：「自分を出す」ことに、躊躇はなかったのですか？

家族関係やガン医療のこと、周囲の出来事などを、ごくごく自然な「フェミ的視線」で記しているから。記述のテンポが小気味よくて、つい笑ってしまい、でも、かなり深刻&大きなことを言ってるんだと、笑いの余韻の中で反芻していく…そんな本である。

私がこの本に感じた一番大きなテーマは、「ガン」というよりむしろ「母親」。DV夫&娘たちとの生活の中で、自分の人生を生き抜くことなく、著者がガンになったのと同じ年齢で子宮ガンを患い逝ってしまった「お母さん」に対する著者の思い。

乳がんだと確信しつつ、「胸に穴があく」まで病院に行かなかった部分を読んだ時、著者の母娘関係の奥の深さが自分の母との関係に投影され、しばし沈黙してしまった。

とはいえ、繰り返すけれど、深刻に書かれている本では決してありません。「乳がんで開放感を味わうワタシって、どうよ?」(帯より)の本なのです。(M)

高橋：「あっ、こういう気持ちになってるんだ」と確認することが新鮮でした。かなりつらいことでも、書いてしまうと、「こんなものか」って、思えるのです。言葉にならずに何もやしている間の方が大変です。

——：フェミニストであることは、高橋さんにとって、大きな意味を持っていたらした…

高橋：自分では、はっきりとフェミニストだと気付かなかったのですが、乳ガンになって、医療関係者や他の患者さんたちとつながりを持つようになって、だんだん、自分はフェミニストなんだと認識してきました。家族関係でのやり取りに不満がありました。社会に出てからもアートの世界も男性が中心でした。そんな中で、以前から自然にフェミニスト的思考をしていたのが、ガンになってコラムを書くようになってから、より自覚的になったんだと思います。

——：お母さんに対する気持ちも変わってきた？

高橋：「自由に生きたら？でも、いなくなったら困るよなあ」という子ども時代の気持ちに整理がつかしました。父親にも先日会ったのですが、「少し話せるかな」みたいな感じがしてきましたよ。(聞き手：森屋裕子)



HOT・FILE

会員の皆さんのページです。さまざまな情報交換や、プロジェクトの呼び掛けなどにご利用ください

書評

『グラミン銀行を知っていますか?』 坪井ひろみ著 東洋経済新報社 2006年2月 1890円

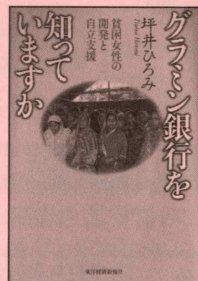
水野桂子(東京女子大学大学院)

本書は著者が2004年に提出した博士論文を全面的に書きかえたものであるが、学術的というより、バングラデシュでユヌス博士が始めたグラミン銀行について、入門書のように中学生くらいから読めるようわかりやすい内容にまとめられ、しかも文字も大きく配慮されている。グラミン銀行のマイクロクレジット(小規模融資)の手法はそれに賛同した者たちによって世界各地に広まっており、またマイクロクレジットの研究も数多くあるが、日本ではグラミン銀行についてわかりやすい紹介の書がほとんどなかった。本書を通じて新たにグラミン銀行について広く知られることを期待したい。

特に、農村の女性たちが、グラミン銀行からマイクロクレジットを受け、その人なりの小さな事業(養鶏、野菜作り、機織など)を始め、所得を増やし、ローンを返済し、生活状況を向上させ、意識の変化があった過程がまとめられている。社会状況が異なるので、日本へはグラミン銀行と女性たちとの関わりについてそのままは適用できないと考えるが、ユヌス博士とグラミン銀行が貧困女性には本来力を持っているものと信じ、女性グループに小規模融資で支援してきたやり方からは学ぶことは大いにある。

著者は昨年出版されたマーサ・C・ヌスパウム著『女性と人間開発：潜在能力アプローチ』(岩波書店)の訳者の一人であり、本書にはヌスパウムが提唱する潜在能力アプローチの視点をもとにした考察もある。グラミン銀行に参加する女性たちは週1回集会にほとんど休まずやって来る。その理由は著者によると、「様々なことを話し合い、他のメンバーとふれ合いの中で自己の価値が感じられるから」であり、所得からだけではない質的向上の実感の声の響きにあふれていると言う。それは女性のグループ化により段階を経てのエンパワーメントでもある。

本書とともに、『グラミン銀行創設者ムハマド・ユヌス自伝』(ユヌス著、猪熊弘子訳、早川書房1998年)を合わせて読むことを強くお勧めしたい。



ウィメンズブックス

WBからの風

『ウィメンズ ブックス』のニュース・お知らせなどのページです

ウィメンズブックストア 5
2・3・4月ベストセラーTOP

- 1 仕事論
ドーンセンター/編著 アルゴ/発行
西日本出版社/発売 2006年2月 1365円
- 2 かけがえのない、大したことのない私
田中美津/著 インパクト出版会 2005年10月 1890円
- 3 生き延びるための思想 ジェンダー平等の畏
上野千鶴子/著 岩波書店 2006年2月 2520円
- 4 DV防止とこれからの被害当事者支援
戒能民江/編著 ミネルヴァ書房 2006年2月 2520円
- 5 男の電話相談 男が語る・男が聴く
『男』悩みのホットライン/編著
かもがわ出版 2006年1月 630円

『ウィメンズブックスクラブ』入会のご案内

- メール FAX 電話のご注文で迅速発送
- 送料：会員割引サービス。会員の方には、入金確認前でも発送いたします。
- 年間 900 冊の新刊書籍情報、ミニコミ案内、特集などを掲載した機関誌「ウィメンズブックス」を年 4 回お送りいたします。
- 会員のみなさまの著作紹介、関係する冊子などの委託販売をお受けします。
- 入会は随時受け付けています。詳細はご連絡ください。
- 年会費（年度は 4 月から翌年 3 月・入会金は不要です）
個人会員 3000 円
海外会員・団体会員 3800 円

リスト書籍をご希望の方へ

同封の振込用紙の通信欄、又は FAX 注文表に書名、書籍代(消費税込み)を書いてお申込ください。下記の送料共でお振込くださいますようお願いいたします。

HPのご注文欄やメール・電話でのご注文もお受けいたしております。

※ リスト書籍以外のご注文もお受け致しております。

〈送料〉

- 書籍代(消費税込み)が 15000 円以上の送料は無料
個人会員 書籍代(消費税込み)が 15000 円未満の送料は上限 300 円
海外会員・団体会員 別途請求をさせていただきます

女性センター、女性政策課、研究室、図書館向けサービス

リストアップ、各種配本の迅速手配、データ管理、コーティングなど

○ 自費出版承ります。ご相談ください。 ○

店舗/ウィメンズブックストア ゆう

〒540-0008 大阪市中央区大手前 1-3-49 ドーンセンター 1F
電話 06-6910-8627 FAX 06-6910-6115
E-mail info@womens-books.jp
郵便振替口座 00900-5-309395

火～金：午前 10 時から午後 7 時
土・日・祝：午前 11 時から午後 6 時 30 分
定休日：月曜 ドーンセンター休館日

ウィメンズブックストア物語

『女の本屋の物語』
いよいよ出版

中西豊子著

ウィメンズブックストアゆう発行

ドメス出版発売

1680円 2006年6月発行予定

ウィメンズブックストア松香堂の創業者である中西豊子による、ウィメンズブックストアの物語。女の本とシスターフッドがぎっしりつまった、'志'はでっかい小さな本屋'のお話です。



予約
申し込み
受付中

ご案内 日本女性学会のお知らせ

◆6月10日(土) 午後1時～4時30分

シンポジウム

『ジェンダーをめぐる暴力とトラウマ』

—暴力への対抗としての、フェミニズムの希望のあり方

パネリスト：大越 愛子、木村 涼子、宮地 尚子

コーディネーター：伊田 広行

◆6月11日(日) 午前10時～午後3時30分

分科会、個人発表、ワークショップ

場所：ドーンセンター（大阪府中央区大手前 1-3-49）

Tel.06-6910-8500

主催連絡先 日本女性学会事務局

〒272-0023 千葉県市川市南八幡 1-16-24

TEL 047-370-6068 FAX 047-370-5051

原稿募集

書評やアピール、イベント情報などを400字以内でおよせください。

次号の締め切りは2006年8月5日です(発行予定日2006年8月25日)

WEBショップ展開中

<http://www.womens-books.jp>

メルマガ発信中

月一回の配信。編集長からのお薦め新刊本案内が中心です。

登録はinfo@womens-books.jpまでどうぞ

■ 'ゆう' だより

◎ バックラッシュの本も、それに対抗する本も、続々出版されています。次々に入荷する本を手にとって、憤慨してみたり力強く感じたり。「いわゆるバックラッシュ」の本でも、しっかり論考してあると思えるものなら店頭におきたいのですが、そういう本にはなかなかめぐりあえなくて…。今年の5月は、雨が多いような気がするのですが、みなさまのところはいかがですか？

(ウィメンズブックス編集長：森屋裕子)

■ 20号でご紹介した、大江秀房著『科学史から消された女性たち』(講談社)ですが、本文中に無断引用、不適切な引用があることがわかり、回収、絶版となりました。お知らせいたします。